

平成二十二年（二〇一〇年）三月二十二日 地球と北極星・北斗星との関係について

神から人へ、人から神へ。

永きの年月、時の流れに、人は己の使命を忘れ、今ある生の、眼前の、瑣末な事象、現象に、

惑い、愁いの 日を送りきぬ。

さにて 本日、宇宙の星々、その中にある、宇宙の意図を、意味を伝えむ。

宇宙の始めに、神のあり。

神の意図にて 宇宙は生まれ、時の流れの中にて進化し、互いの間のつながりにより、さらに緻密な動きを始めぬ。
なれば地球もその中にて、遅くに生まれし星なれば、

さらにも古き星により、宇宙の中の役割、使命、そもまた他より、定められぬる。

遠きかなたの星々は、遠くに見えれど、さにあらず。

地球の踏むべき 進化の道を、時空を超えて 導き示す。

なれば人は 古代より、天文学を発達させて、地上の農耕、狩猟、漁業を、星より学び、星にて占う。

宗教、祭祀、学問、政治、全てに星は 関わらざるなし。

星の位置にも 運行にも、宇宙の意思は顕われぬれば、人はそこより 謙虚に学び、宇宙の意思に適わむとせり。

北極星や北斗星、それらも指針の一つなり。

人が宇宙の星々の、位置を見定め、過たぬよう、北天の空に位置を占め、標となりし星なれば。

古代の人は 宇宙の星の、大いなるを、聖なるを、厳かなるを 畏みて、

神の尊き働きを、御魂の底より、感得せり。

宇宙の奥に 人の根源、御魂の由来は 秘められぬれば、人の中にも宇宙あり。

宇宙は人の外ならず。

人も宇宙の一部なり。

人は宇宙の意思を享け、宇宙の命の一部を生きる、宇宙の具現化せしものなれば。

何千万もの歳月は、人の御魂の中に生き、

何億、何兆、無限の命を、個々の御魂に 記憶せり。

進化の歴史は 遺伝子に、記号となりて、受け継がれぬる。

一つの命は 一つにあらざ。

一つに見えるは、我による迷妄。

宇宙はひとつの命なり。

なれど 人は迷いの生きもの。己の肉眼、頭脳を過信し、宇宙の神秘を 否定せる。

人に備えし靈性にて、心眼をもて、宇宙に対せよ。

宇宙の意思と呼応せば、宇宙の叡智は 掌中にあり。

人は宇宙の進化と共に、命の学びを 御魂に刻めよ。

御魂に刻みし、宇宙の進化は、さらなる進化を 促しゆかむ。

しばしの混沌、蹉跌はあれど、そをも乗り越え、学びを深めよ。

宇宙の進化の 魁なれど、神の願いを 託せし人よ。

絶えることなき 神の祈りに、宇宙の願いに、耳 傾けよ。

全き命の完成まで、神の願いの成就まで、人も 地球も、欠かせぬなれば。

さにて、本日、宇宙の星と地球、人との関係について 示したり。

精進の糧とし、精励せよ。さにて。